



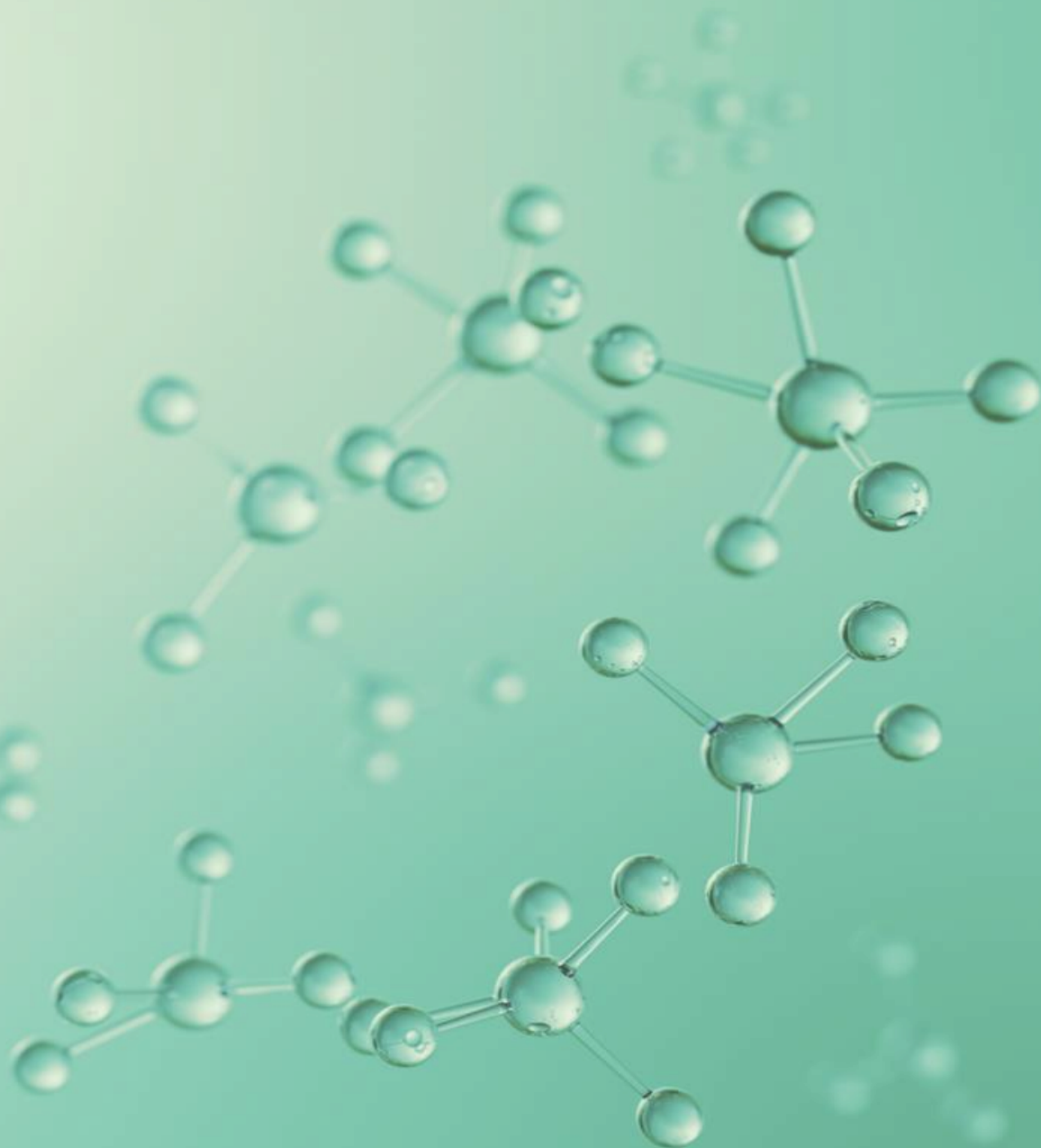
証券コード：7932

株式会社ニッピ

2026年3月期

# 決算説明資料

2026年5月15日



# INDEX

**1** 2026年3月期 決算概要

**2** 2027年3月期 業績予想

**3** 中期経営計画の進捗

**4** APPENDIX



# 1 2026年3月期 決算概要

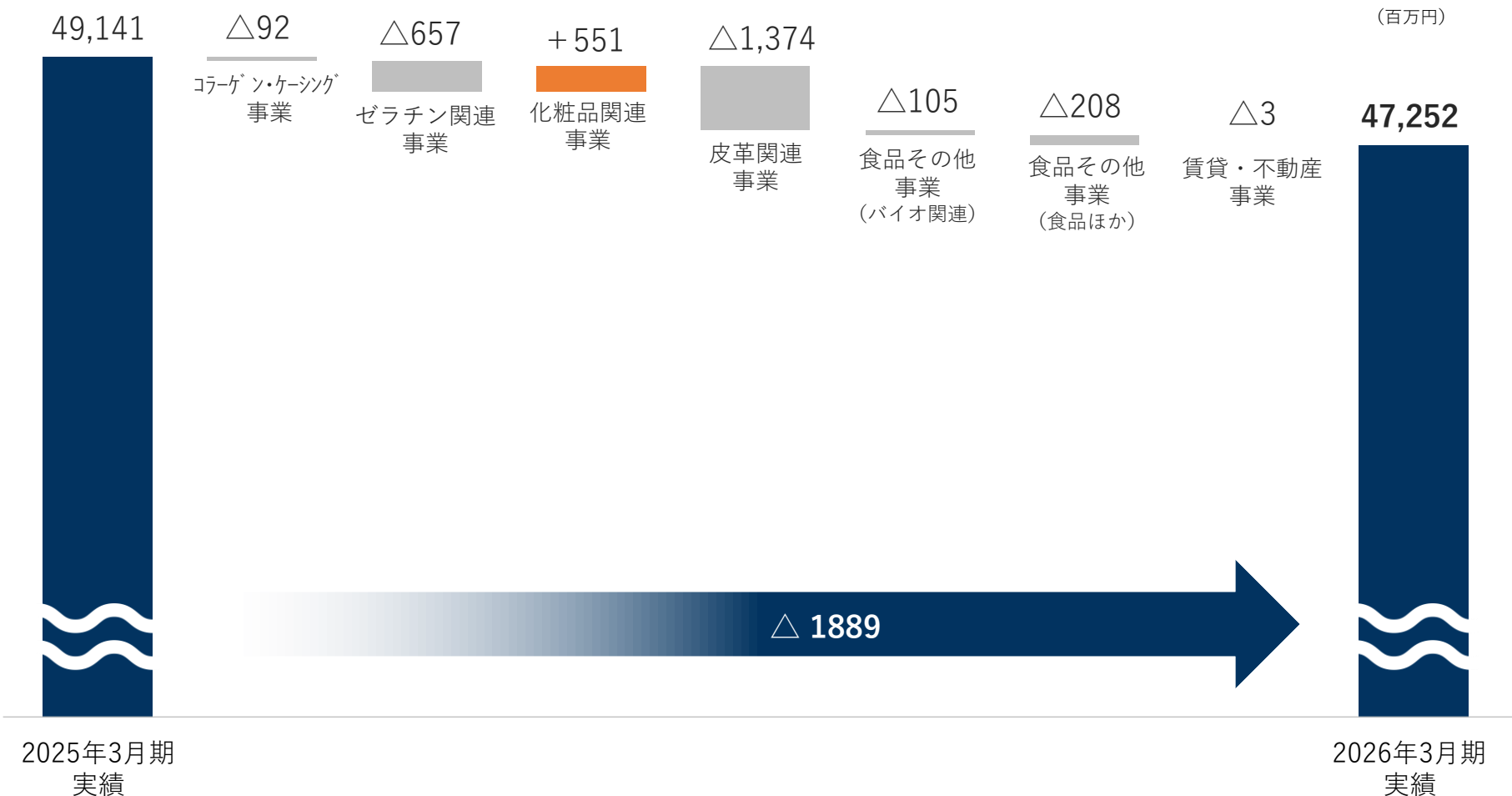
# 2026年3月期 決算概要（連結）

売上高は微減となったが、各利益で前年比、計画比ともに増益

単位：百万円	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	2026年3月期 実績	前年同期比 (26.3期実績/25.3期実績)
売上高	49,141	49,000	<b>47,252</b>	△3.8%
営業利益	3,627	3,800	<b>4,153</b>	+14.5%
営業利益率	7.4%	7.8%	<b>8.8%</b>	+1.4P
経常利益	3,615	3,800	<b>4,206</b>	+16.4%
親会社に帰属する 当期純利益	2,457	2,600	<b>2,832</b>	+15.3%
一株当たり当期純利益（円）	854.46	904.11	<b>993.45</b>	+16.3%
ROE	6.3%	—	<b>7.0%</b>	+0.7P
ROIC	4.9%	—	<b>5.6%</b>	+0.7P

# 連結売上高 増減要因分析

## 皮革関連事業が各種需要の減少により売上高を落とす

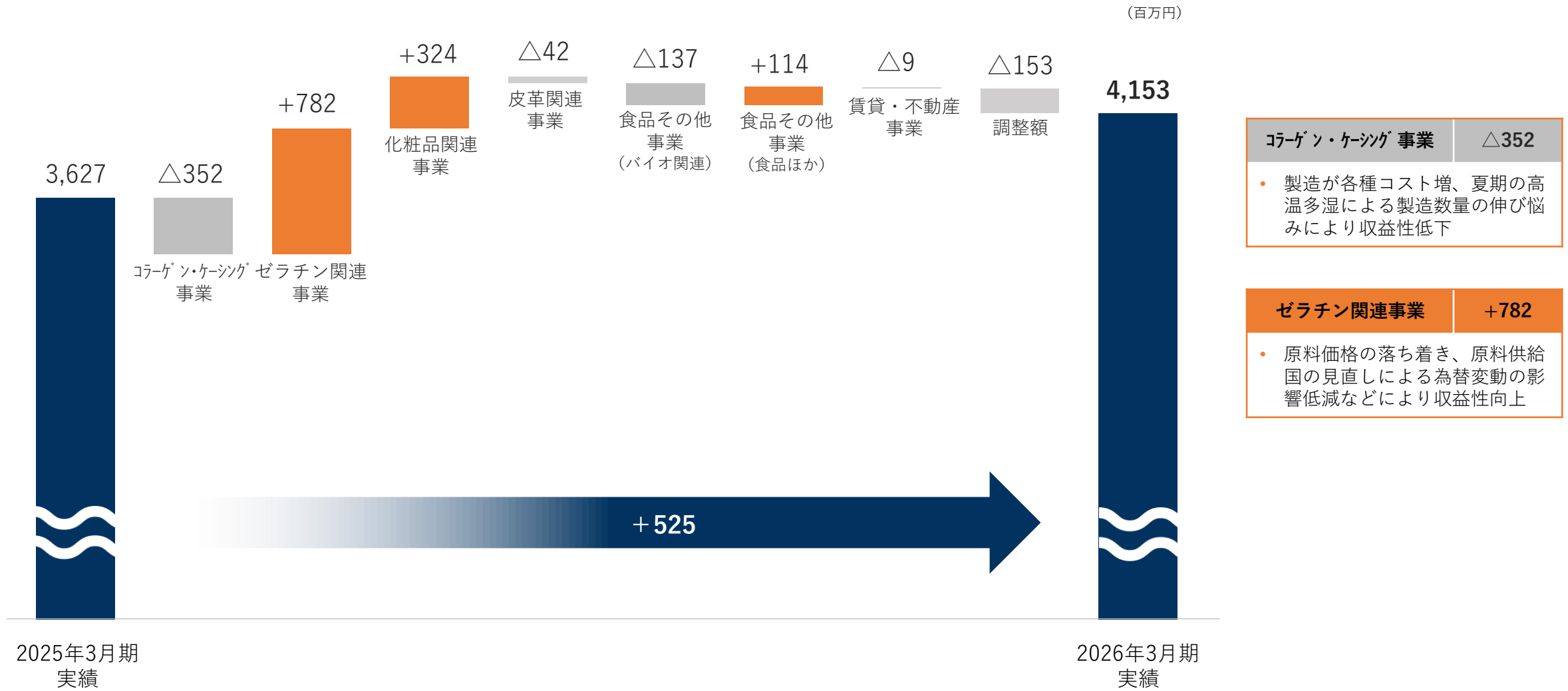


ゼラチン関連事業	△657
<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼラチンはカプセル用途および食品用途の販売が苦戦し減収</li> <li>ペプチドは価格競争の激化もあり、アジア向けの輸出が減少</li> </ul>	

皮革関連事業	△1,374
<ul style="list-style-type: none"> <li>革靴の需要減、中国経済の減速によるハンドル用革の需要減などにより減収</li> </ul>	

# 連結営業利益 増減要因分析

ゼラチン関連事業および化粧品関連事業が、原料価格の落ち着きもあり増益



# セグメント別業績（連結）

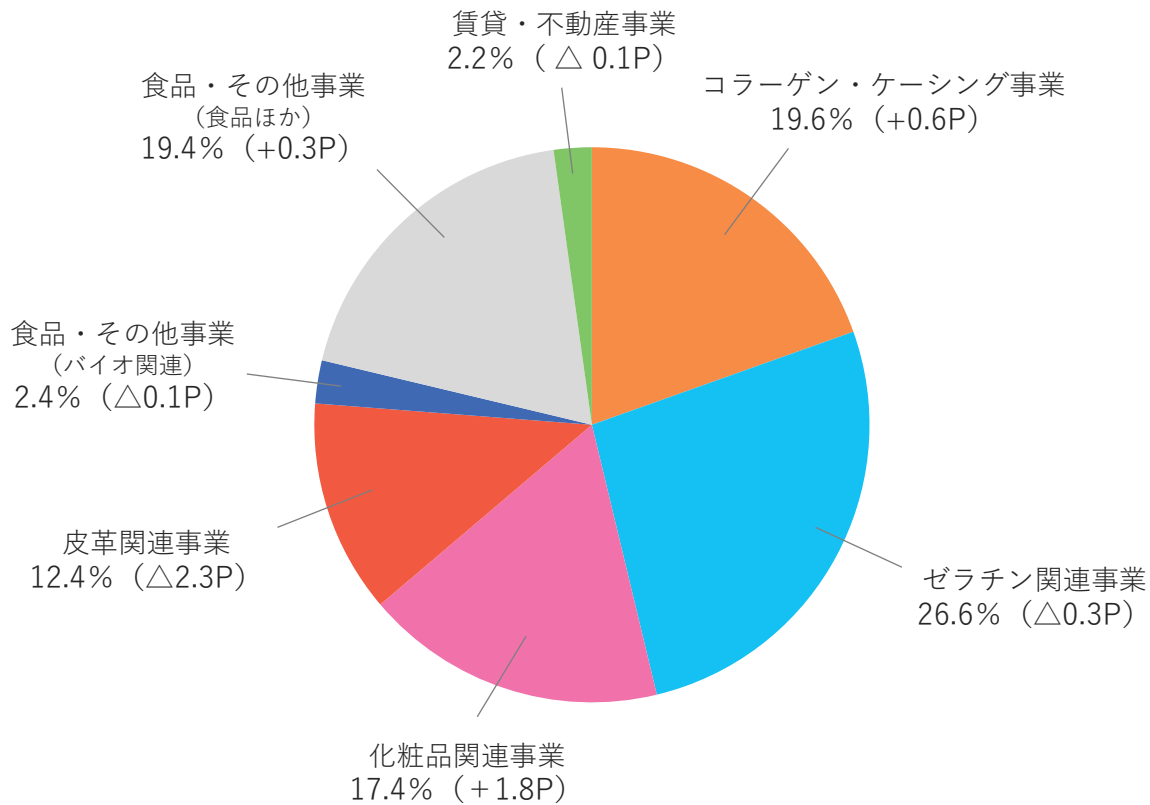
売上高は前年割れも、ゼラチン関連事業等の増益が寄与し全体でも増益となる

単位：百万円	売上高				営業利益			
	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前期同期比		2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前期同期比	
			金額	比率			金額	比率
コラーゲン・ ケーシング事業	9,328	<b>9,236</b>	△92	△1.0%	1,165	<b>812</b>	△352	△30.3%
ゼラチン関連事業	13,242	<b>12,585</b>	△657	△5.0%	1,589	<b>2,372</b>	+782	+49.3%
化粧品関連事業	7,704	<b>8,256</b>	+551	+7.2%	1,015	<b>1,339</b>	+324	+31.9%
皮革関連事業	7,227	<b>5,852</b>	△1,374	△19.0%	210	<b>167</b>	△42	△20.2%
食品その他事業 (バイオ関連)	1,219	<b>1,114</b>	△105	△8.6%	277	<b>139</b>	△137	△49.6%
食品その他事業 (食品ほか)	9,357	<b>9,148</b>	△208	△2.2%	318	<b>432</b>	+114	+36.0%
賃貸・不動産事業	1,061	<b>1,058</b>	△3	△0.3%	836	<b>826</b>	△9	△1.2%
調整額	—	—	—	—	△1,784	<b>△1,937</b>	△153	+8.6%
合計	49,141	<b>47,252</b>	△1,889	△3.8%	3,627	<b>4,153</b>	+525	+14.5%

# セグメント別業績 構成比 (連結)

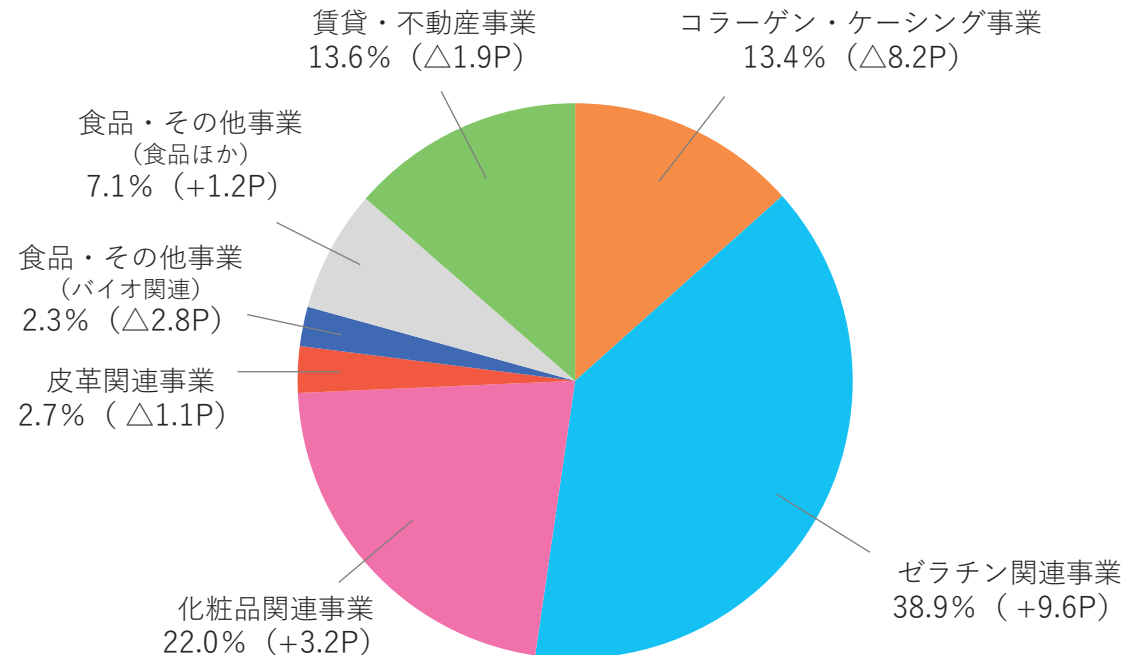
利益面ではゼラチン関連、化粧品関連の比率が高まる

売上高構成比



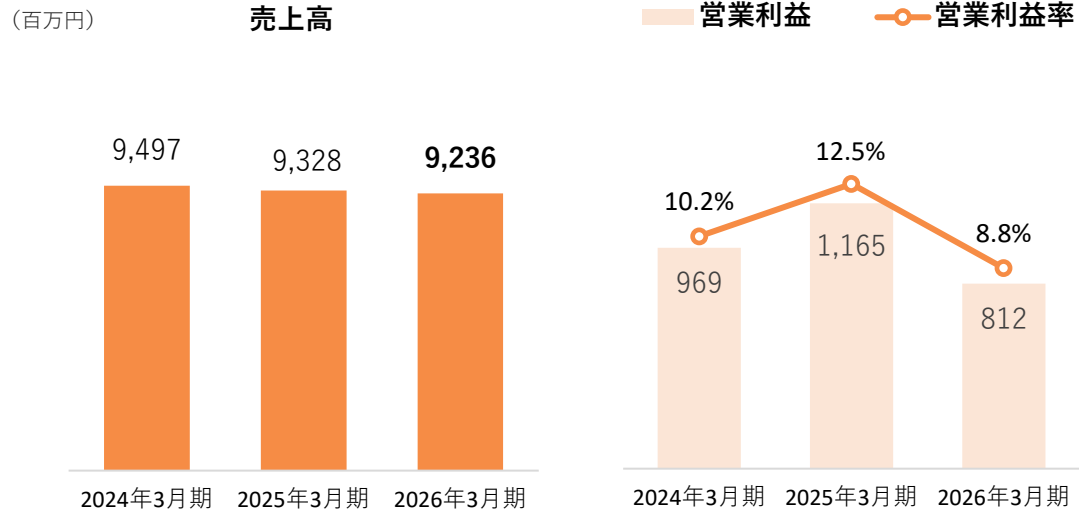
営業利益構成比

(全社費用控除前)



# セグメント別業績（連結）

## コラーゲン・ケーシング事業



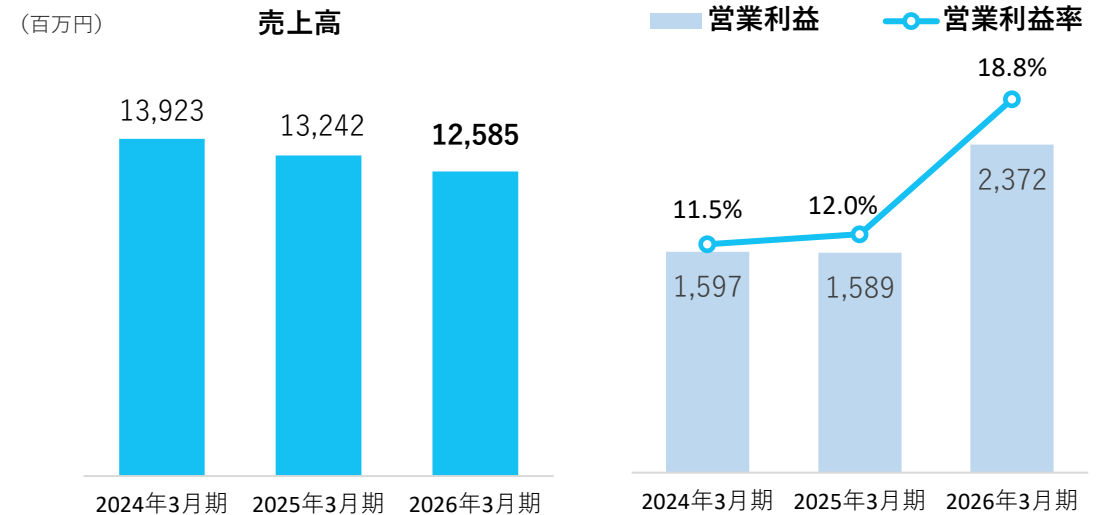
### 売上高

- 国内販売において、原料の高騰による各メーカーの価格改定実施により最終製品の需要が減少

### 営業利益

- 製造が各種コスト増、夏期の高温多湿による製造数量の伸び悩みにより収益性低下

## ゼラチン関連事業



### 売上高

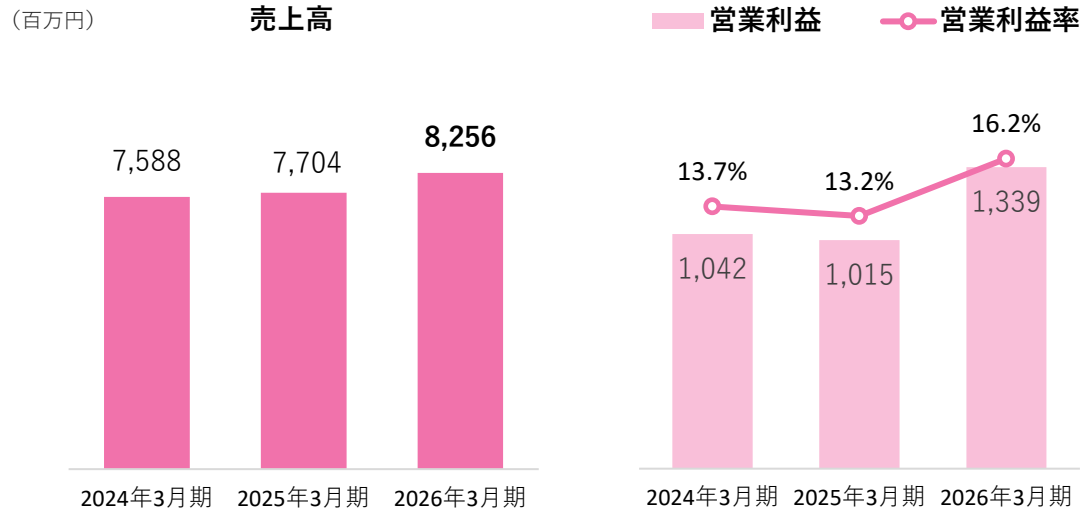
- ゼラチンはカプセル用途および食品用途の販売が苦戦し減収
- ペプタイドは価格競争の激化もあり、アジア向けの輸出が減少

### 営業利益

- 原料価格の落ち着き、原料供給国の見直しによる為替変動の影響低減などにより収益性向上

# セグメント別業績（連結）

## 化粧品関連事業



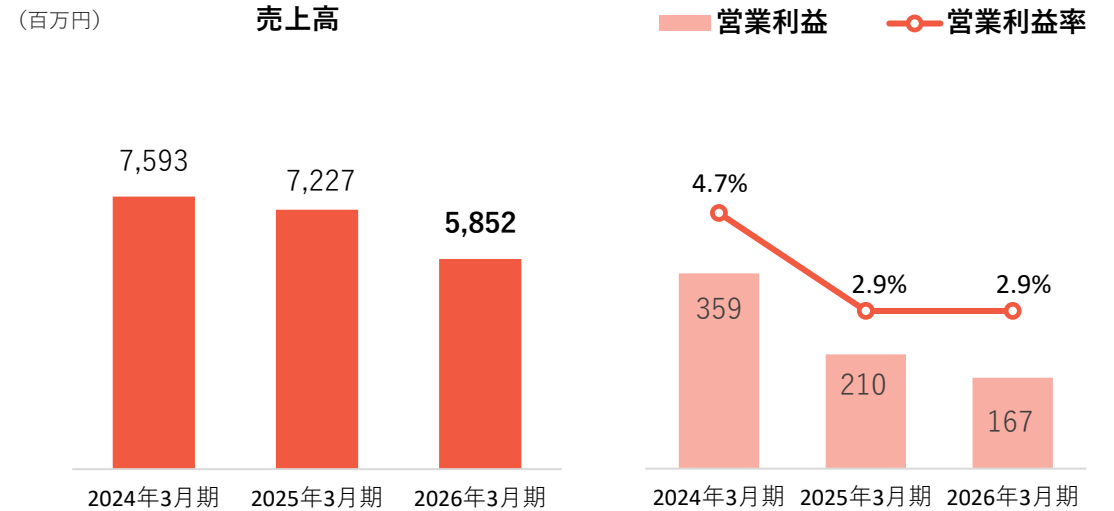
### 売上高

- 物価高騰による消費マインド低下の影響があるものの、「ニッピコラーゲン100」の販売が引き続き伸長

### 営業利益

- 広告・宣伝の効率向上による販管費率の低減により、収益性が向上

## 皮革関連事業



### 売上高

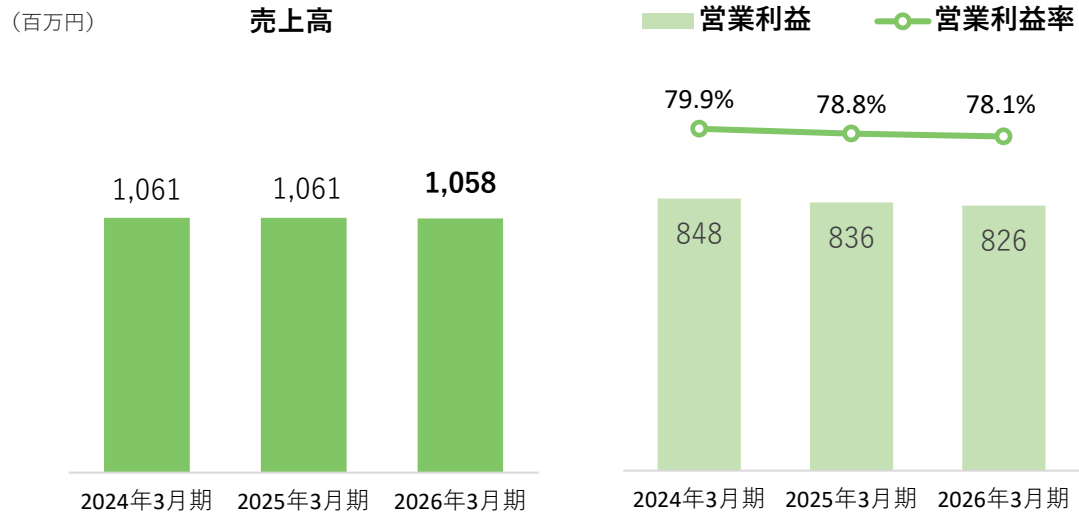
- 革靴の需要減、中国経済の減速によるハンドル用革の需要減などにより減収

### 営業利益

- 売上高の減少に伴い減益

# セグメント別業績（連結）

## 賃貸・不動産事業



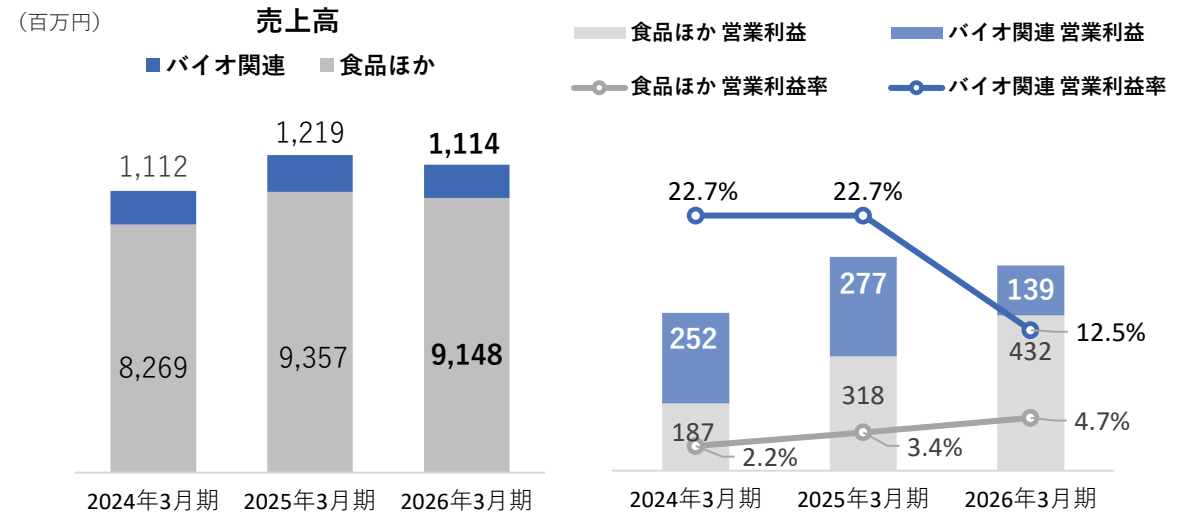
### 売上高

- ほぼ前年と同様で着地、東京都および大阪府における開発は一段落し、今後も同水準で推移する見通し

### 営業利益

- 固定資産税が微増

## 食品・その他事業



### 売上高

- バイオ関連：iPS細胞培養基質は堅調も、ペット用サプリ、ケミカル製品が売上を落とす
- 食品ほか：穀物およびイタリア食材の輸入販売が微減

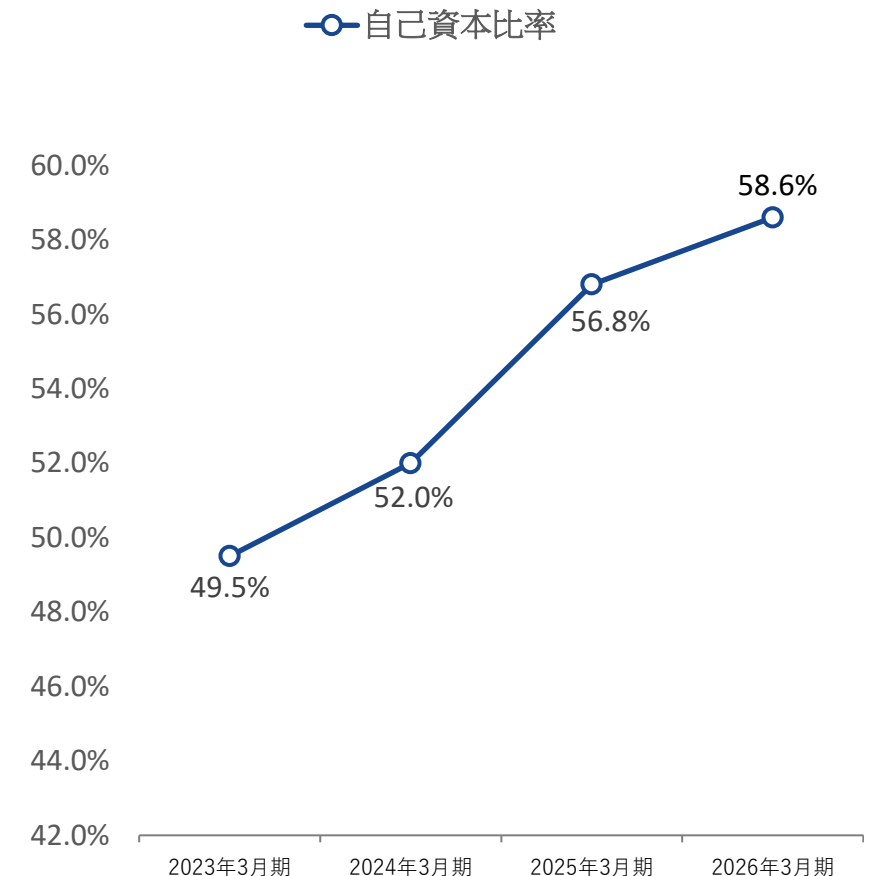
### 営業利益

- バイオ関連：人件費、設備投資関連費用の増加等により減益
- 食品ほか：フレートコストの低下により増益

# 連結貸借対照表

仕入債務が大きく減少し負債が低下したことにより、自己資本比率は上昇

単位：百万円	25年3月期	26年3月期	増減額
流動資産	27,574	27,246	△327
現預金残高	8,933	8,754	△178
固定資産他	42,597	42,879	+281
資産合計	70,172	70,126	△46
流動負債	14,692	12,968	△1,724
固定負債	14,910	15,228	+317
純資産	40,569	41,929	+1,359
負債・純資産合計	70,172	70,126	△46
自己資本比率 <sup>※</sup>	56.8%	58.6%	+ 1.9P

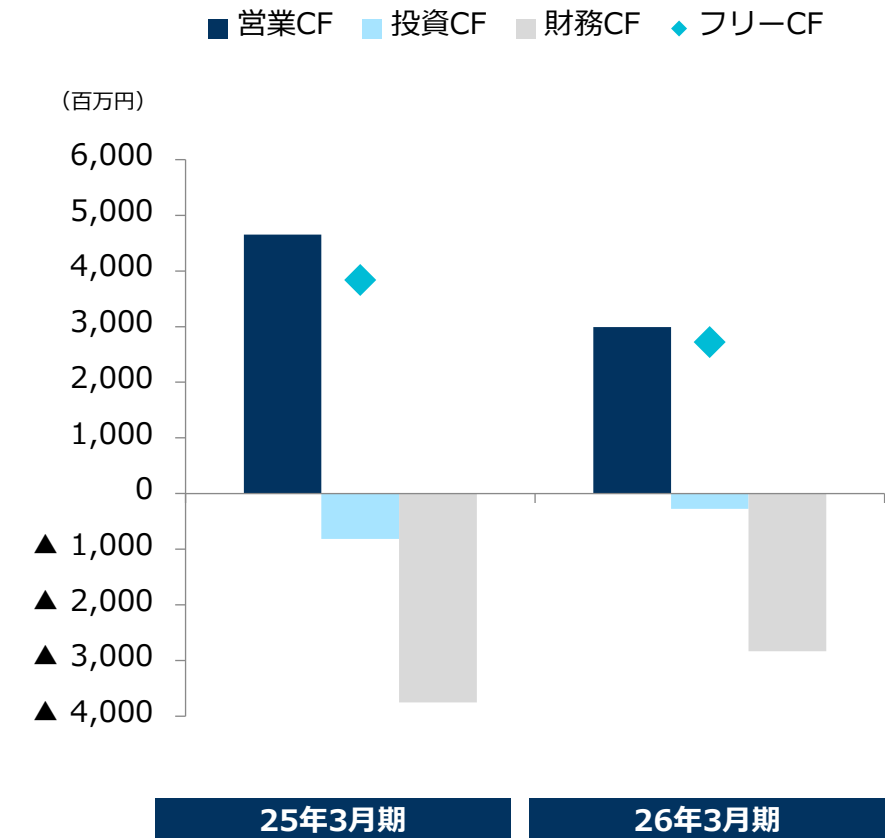


※ 自己資本比率 = 自己資本 / 総資産 × 100  
 (自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 被支配株主持分)

# キャッシュ・フローの状況（連結）

営業CFは安定的に確保、2025年3月期より実施の連結配当性向70%および、自己株式の取得資金を賄う

単位：百万円	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	4,652	2,994	△1,657
投資活動による キャッシュ・フロー	△815	△272	+543
フリー・キャッシュ・フロー	3,836	2,722	△1,113
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,750	△2,834	+916
現金及び現金同等物の 増減額	154	△75	△230
現金及び現金同等物の 期末残高	8,760	8,684	△75



## 2 2027年3月期 業績予想

# 2027年3月期 連結業績予想

各利益は今期並みを予想、今期計画未達となった売上高の成長軌道回復を目指す

単位：百万円	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	前年同期比 (27.3期予想/26.3期実績)
売上高	47,252	50,000	+5.8%
営業利益	4,153	4,100	△1.3%
営業利益率	8.8%	8.2%	△0.6P
経常利益	4,206	4,100	△2.5%
親会社に帰属する 当期純利益	2,832	2,800	△1.1%
一株当たり当期純利益 (円)	993.45	1,000.02	+0.7%
ROE	7.0%	—	—
ROIC	5.6%	—	—

### 3 中期経営計画の進捗

# 中期経営計画の進捗

中期計画1年目（2026年3月期）の数値目標は売上高を除き達成、引き続き中期計画3年目である2028年3月期の目標達成を目指す

単位：百万円	2026.3期 計画	2026.3期 実績	26.3期計画/実績比	2027.3期 業績予想	2028.3期 中期計画
売上高	49,000	47,252	△1,747	50,000	52,000
営業利益	3,800	4,153	+353	4,100	4,300
営業利益率	7.8%	8.8%	+1.0P	8.2%	8.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,600	2,832	+232	2,800	3,000
ROE	6.5%	7.0%	+0.5P	—	7.0%
ROIC	5.3%	5.6%	+0.3P	—	5.5%

# 4 APPENDIX





代表取締役社長 伊藤裕子

## 自然の創造物を人々の暮らしへ

1907年の創業来、当社は「良いもの」をつくることにこだわってまいりました。品質第一を信念に、お客さまの要望にお応えする製品を提供すること、これが、創業以来変わらない当社の経営方針です。当社は、事業の要となるコラーゲンにいち早く着目し、その研究を続けてまいりました。コラーゲン業界の先駆企業としての自負をもちながら、今なお新たな分野に挑戦し続けています。今後さらに50年、100年の歴史をつくるためにも、「つぎの良いものを創ること」に取り組んでまいります。

2004年9月 当社入社  
2014年10月 大倉フーズ株式会社取締役  
2015年7月 当社執行役員  
2017年6月 株式会社ニッピコラーゲン化粧品取締役  
2019年6月 同社常務取締役  
2019年7月 当社経営企画室プロジェクトリーダー

2021年6月 当社取締役、経営企画室長、  
化粧品・健康食品事業部・関係会社、知財担当  
2021年6月 株式会社ニッピコラーゲン化粧品代表取締役社長  
2023年4月 当社代表取締役社長（現）  
2023年6月 一般財団法人日本皮革研究所理事長（現）

# 会社概要



商号	株式会社ニッピ (Nippi, Incorporated)
本社所在地	〒120-8601 東京都足立区千住緑町1-1-1
ホームページ	<a href="https://www.nippi-inc.co.jp/">https://www.nippi-inc.co.jp/</a>
設立	1907年（明治40年）4月1日
資本金	4,404百万円
証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場（証券コード：7932）
従業員数	481名（2026年3月31日現在）
代表者	代表取締役社長 伊藤 裕子
事業所	生産拠点： テクノセンター（東京都） 富士工場（静岡県） 富士宮工場（静岡県） 芝川工場（静岡県） 研究所： バイオマトリックス研究所（茨城県）

## 事業内容

コラーゲン・ケーシング事業  
ゼラチン関連事業  
化粧品関連事業  
皮革関連事業  
賃貸・不動産事業  
食品その他事業

## 主な子会社

株式会社ニッピコラーゲン化粧品  
株式会社ニッピ・フジタ  
大鳳商事株式会社  
大倉フーズ株式会社  
NIPPI COLLAGEN NA INC.  
日皮（上海）貿易有限公司  
日皮胶原蛋白（唐山）有限公司  
ニッピ都市開発株式会社  
株式会社ボーグ

## 関連会社

株式会社マトリクソーム

## 関係団体

一般財団法人日本皮革研究所

本社ビル

テクノセンター

富士工場

富士宮工場

芝川工場

バイオマトリックス研究所



当社のDNA

「**生み、育み、支える**」

ものづくりへのこだわり

高品質

ユニーク

先取り

ありたい姿

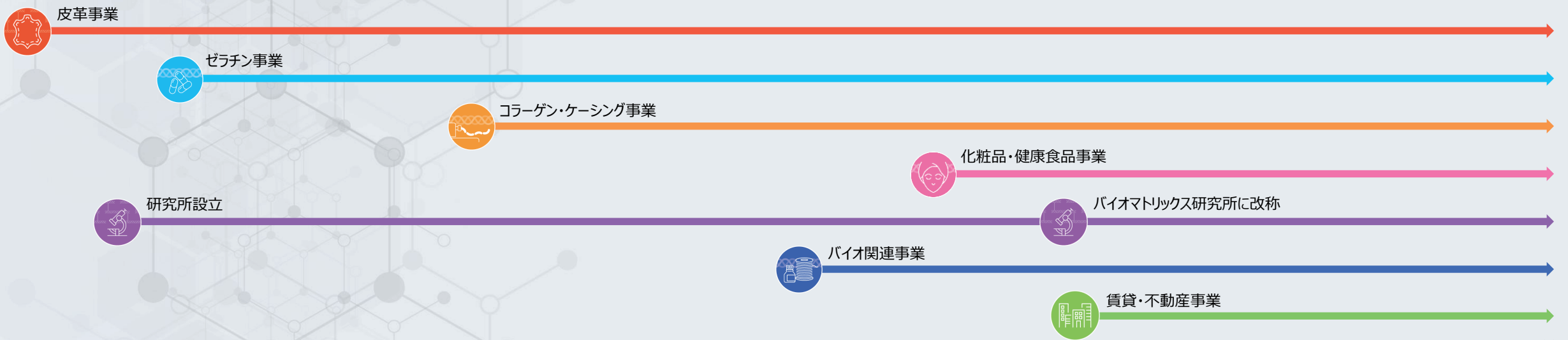
タンパク質研究の  
エキスパートとして  
人々の生活の質の  
向上に貢献する

食・健康・医療関連分野におけるニッチトップを目指し  
ユニークな製品・サービスを提供

# 事業創出の歴史

皮革事業の会社として創業し、社会の変化に合わせて新規事業を創出してまいりました

<p>日本皮革株式会社 (現当社) 創業</p>	<p>ゼラチン 事業へ進出</p>	<p>コラーゲン 研究の推進</p>	<p>コラーゲン・ ケーシング事業へ進出</p>	<p>コラーゲン ペプチドの開発</p>	<p>コラーゲン 化粧品事業へ進出</p>	<p>試料破碎器具の 開発</p>	<p>3D培養基材 の開発</p>						
1907	1932	1952	1960	1962	1974	1975	1976	1984	1997	2003	2011	2021	2024
<p>創業時の取締役会長 大倉喜八郎</p>			<p>コラーゲン 可溶化の成功</p>	<p>株式会社ニッピへ 商号変更</p>		<p>耐熱・耐焼性難質 塩化ビニルの開発</p>		<p>医療用高純度 ゼラチンの開発</p>	<p>再生医療分野 へ進出</p>		<p>“世界初” ラミニン配合 化粧品発売</p>		



# 主な製品

タンパク質研究を根幹に、幅広い製品を製造・販売しております

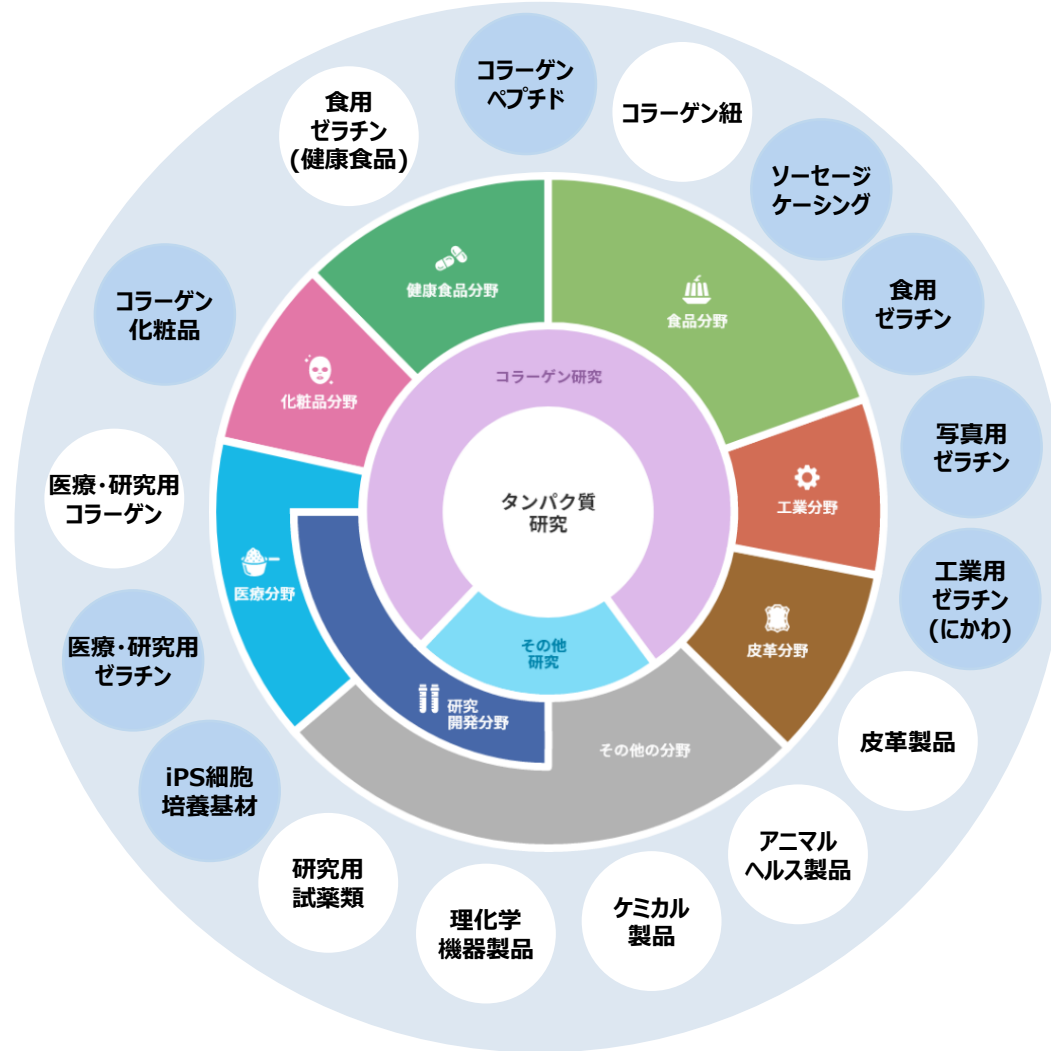
## コラーゲン化粧品

コラーゲンを配合したスキンケア製品。コラーゲンは、肌や骨、関節、髪などに含まれるタンパク質で、特に肌のうるおいや弾力、ハリを保つ役割がある



## iPS細胞培養基材

iPS細胞を培養するための足場材。細胞の増殖や分化に影響を与えるため、iPS細胞の研究や再生医療において非常に重要である。当社では、タンパク質の一種であるラミニンの組換え体を製造・提供している



## コラーゲンペプチド

コラーゲンを酵素や熱などで小さく分解し、断片（ペプチド）にしたもの。水に溶け、腸から吸収されやすいため、体内利用される

ニッピペプタイド®  
Collagenomics®



## コラーゲンケーシング

コラーゲンが主原料であるソーセージなどの皮。牛皮のコラーゲン線維を円筒フィルム上に成形・乾燥して作られる。可食性で、食肉加工で広く使用される

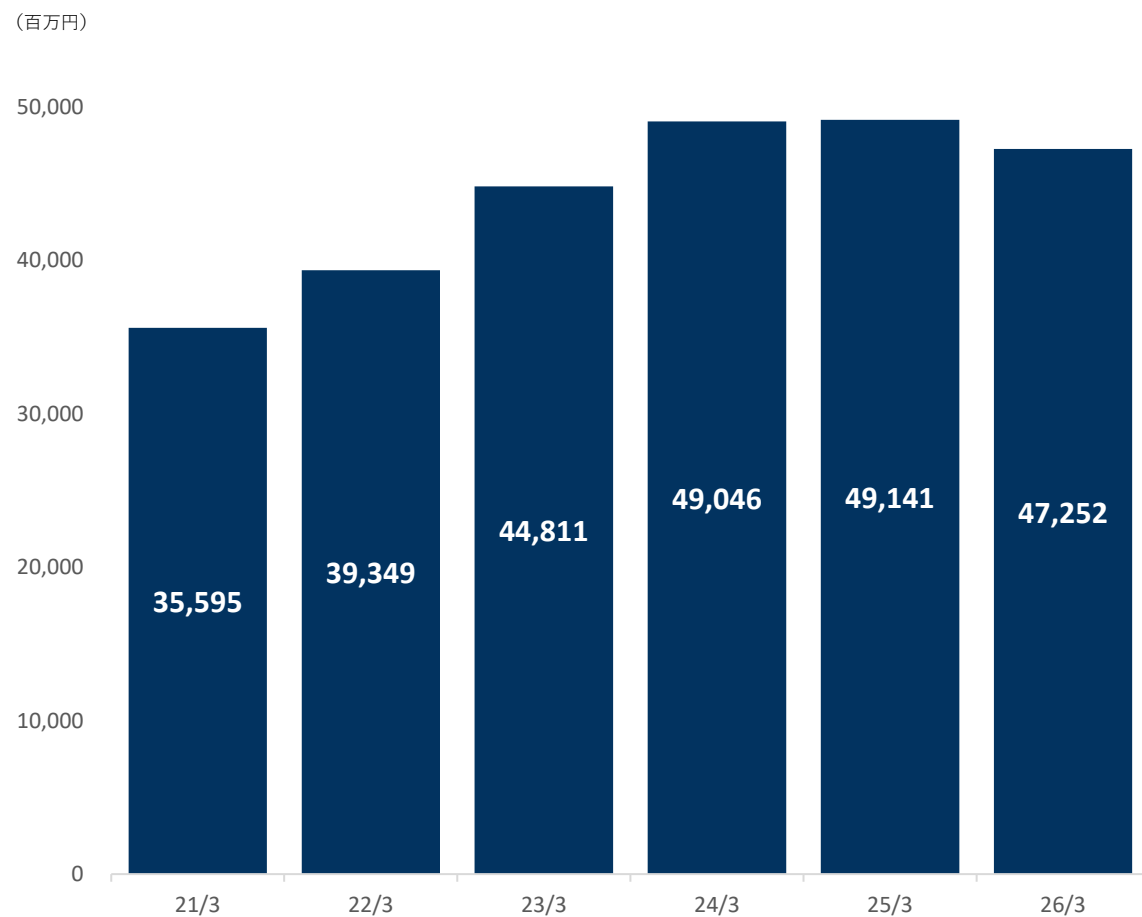


## ゼラチン

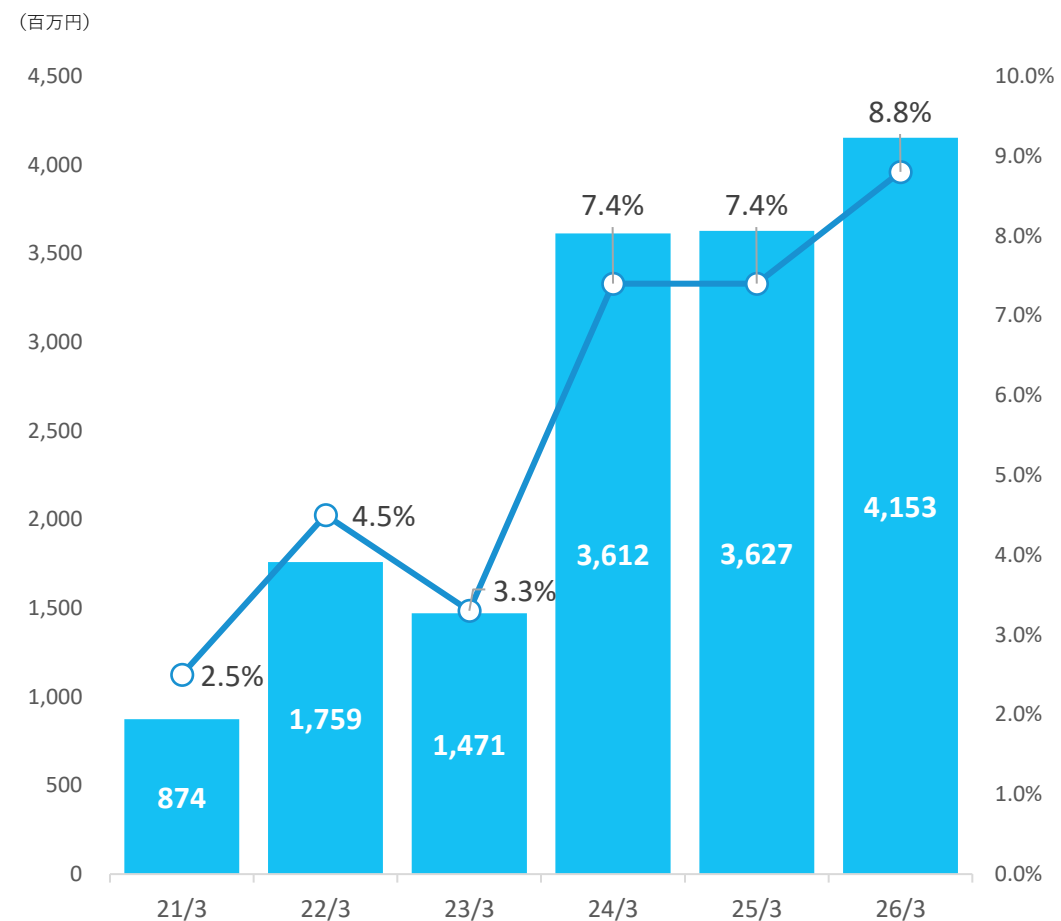
コラーゲンの三重らせん構造が熱で解けて、水に溶ける構造に変わったもの。無色無味でゼリーやグミなどのお菓子、レンジアップ麺やチルド弁当などの食品のほか、医療用途、工業用途、写真などにも使われる



## 売上高



## 営業利益 / 営業利益率



# 事業紹介



## ゼラチン関連事業

生産拠点 富士工場（静岡・富士宮市）

コラーゲンを分解、精製して製造したゼラチンおよびコラーゲンペプチドを取り扱う。ゼラチンは、古くから私たちの暮らしの中で活用されており、ゼリーやグミキャンディ、カプセル、コンビニエンスストアのレンジアップ商品等に使用されている。コラーゲンペプチドは、低分子で体内に吸収されやすく、さまざまな機能が明らかになっている素材。健康や美容への効果が期待でき、水に溶けやすいことから、健康食品の飲料や粉末商品、錠剤などさまざまな用途で使用されている。最新設備を導入したコラーゲンペプチド製造専用施設CQT棟では、長年培った製造技術と最新の研究を活かした「Collagenomics」関連製品等を製造し、市場やお客様のニーズに対応した製品の提供に取り組んでいる。



※ニッピーペプタイド、Collagenomicsは、ニッピの登録商標です



## コラーゲン・ケーシング事業

生産拠点 富士宮工場、芝川工場（静岡・富士宮市）

タンパク質のひとつであるコラーゲンを使用したソーセージの皮「ニッピーコラーゲンケーシング」や、可食性の紐「ニッピーストリング」を取り扱う。ケーシングには、100%ウシ由来のコラーゲンを使用。サイズはもちろん、食感に関わる皮の厚みなど、お客様のさまざまなご要望に対応した製品を提供している。植物性色素を用いたカラーケーシングや、天然素材を使用した印刷ケーシングも取り扱う。ソーセージの皮にイラストをプリントする技術は当社独自のもの。静岡県富士宮市の生産拠点では、富士山の天然水を使用して製造し、世界30か国以上に輸出している。ストリングは、ケーシングと同じ原料を使用し、もち巾着や昆布巻き、ロールキャベツなどの紐として利用されている。



# 事業紹介



## バイオ・ケミカル事業部

生産拠点

ニッピテクノセンター（東京・足立区）  
富士工場（静岡・富士宮市）

コラーゲンおよびゼラチンの基礎研究で培った技術を応用したバイオテクノロジー分野から、高分子研究の成果を用いたケミカル分野まで、幅広い機能性素材や高付加価値製品を取り扱う。

バイオ部門では、医療用途向けのコラーゲンやゼラチンをはじめ、ライフサイエンス研究試薬、細胞培養用基材、動物用体外診断用医薬品などを製造販売。コラーゲンを活かしたペット用サプリメントも取り扱う。

ケミカル部門では、当社独自の技術を応用して開発した化学架橋塩化ビニルを主軸に、電線被覆用コンパウンド、マスキングフィルム、床材溶接棒等を取り扱う。



## バイオマトリックス研究所

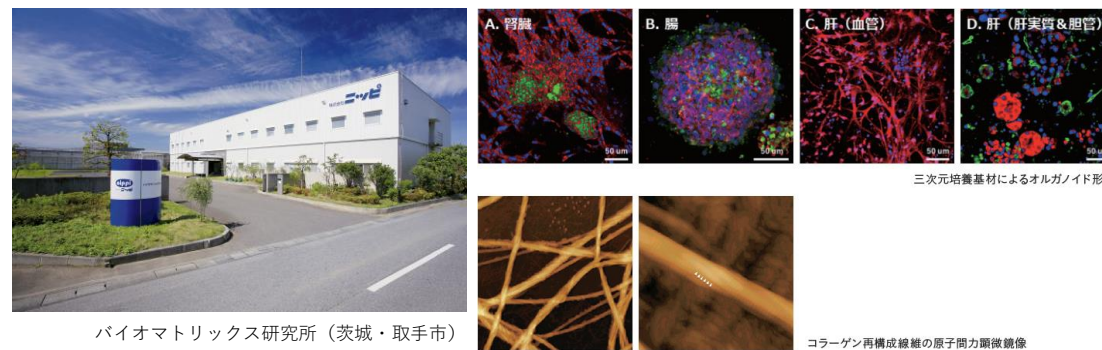
研究開発拠点

バイオマトリックス研究所（茨城・取手市）

ヒトの身体を構成する細胞のうち、赤血球などを除いた十数兆個の細胞は、細胞同士、あるいは細胞が合成分泌して蓄積する細胞外マトリックスという足場に接着している。その主成分が、コラーゲンというタンパク質である。

コラーゲンは、ヒトの全タンパク質の約30%を占めているといわれ、骨や皮膚、腱などの主成分であるだけでなく、あらゆる臓器に存在し、多様な細胞や組織が正常機能を発揮するための環境を提供するとともに、多くの疾患や成長・老化といった生命現象に密接に関与している。

バイオマトリックス研究所では、生化学や細胞生物学、細胞工学を中心に、ライフサイエンス研究用試薬、医薬品、健康食品、化粧品などの分野において、人々の暮らしと健康に貢献するような研究開発に取り組んでいる。





## 化粧品関連事業

コラーゲンメーカーとしての強みを活かし、高品質のコラーゲン製品を展開している。  
主力の「コレセンス スキンケアジェル」と「ニッピコラーゲン100」はロングセラー商品。子会社である株式会社ニッピコラーゲン化粧品を通じ、通信販売によりお客様へ提供している。



コレセンス  
エンリッチ ナイトマスク



コレセンス  
スキンケアジェル

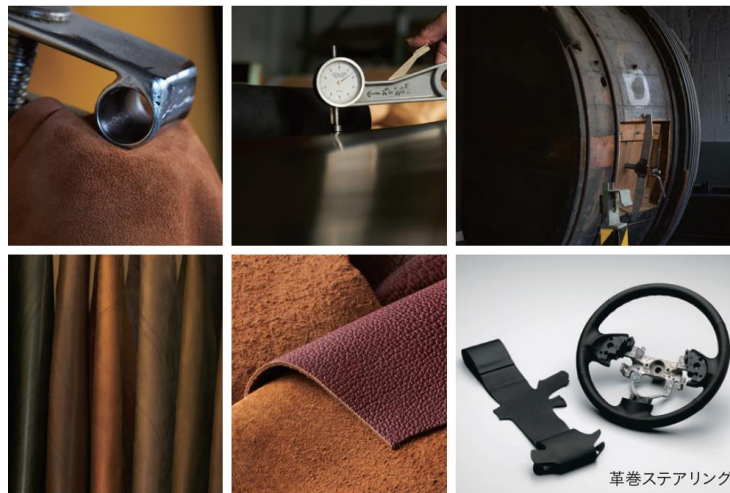


ニッピコラーゲン100



## 皮革関連事業

創業事業である皮革鞣製造業からは退いたものの、当社が100年にわたり蓄積した皮革製造販売のノウハウは子会社である株式会社ニッピ・フジタが継承。同社は皮革のプロフェッショナル企業として、世界中のタンナリーとユーザーをつないでいる。



## 賃貸・不動産事業

東京本社所在地である京成線千住大橋駅前に広がる12万㎡超の複合タウン構想「ポンテグランデTOKYO」の地区開発をはじめ、大阪府大阪市においても賃貸事業および土地開発事業を展開し、当該地区の資産価値向上に取り組む。



みらい千住

ポンテグランデTOKYO

PONTE GRANDE - TOKYO

●昔と未来、●空と緑・花、●川とまち、●風景と建物、  
●人と人 の5つの要素を結びます。

本資料に記載されている情報は、現時点の経済、規制、市場等の状況を前提としています。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されており、将来の結果や業績を保証するものではなく、既知および未知のリスクや不確実性が含まれています。その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予測に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる場合があります。